東日本大震災で被災された皆さんへの たくさんのご支援をありがとうございました

震災直後の3月14日から受け付けを開始しました被災地への義援金は、
41,104,452円（預金利子562円を含む）
また、被災者支援のため鯖江市に寄せられた寄付金は、
4,697,599円
合計で、**45,802,051円**の温かいご支援をいただきました。

被災地への義援金41,104,452円のうち、すでに3,600万円は福井豪雨の際に鯖江市に義援金をいただいた自治体など3県9市町への送金が完了しています。9月21日に開催した配分委員会では、残金5,104,452円（預金利子含む）について、次のような意見が交わされ、送金先を岩手県大船渡市に決定し、9月28日に送金しました。

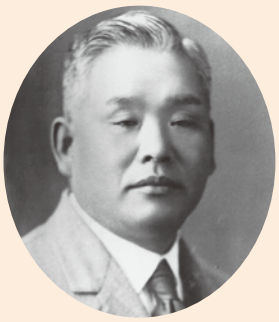
▼義援金を分割するよりも、一つの自治体にまとめて送金したらどうか。
▼震災当初から市が物資や給水支援を実施し、市民の有志がボランティアとして活動し、交流がある。
▼義援金は被災地の子どもたちの教材など教育関係に使っていただきたい。

大船渡の皆さん！ 春たんぼの米で『よいとこせ』、元気を出して

片上地区の区長会と「かみとぴあの会」では、大船渡市でのもちつきボランティアを企画。10月1日、メンバーらは同市の蛸ノ浦小学校グラウンドの仮設住宅を訪問し、地区のイベント「かたかみ春たんぼ」で恒例の『よいとこせもちつき』を行いました。声を合わせてロープを引き、臼に落とす独特のもちのつき方に、被災された皆さんの顔にも笑みがこぼれ、会場は和気あいあいとしたひとときとなりました。

さばえ人物ものがたり その14

銀行・電力・鉄道で鯖江の開発に尽力 福島（ふくしま） 文右衛門（ぶんうえもん）



2代目鯖江市長
福島文右衛門（幼名・健次郎）の父

福島文右衛門（幼名・文治）は、銀行や電力、鉄道事業などを通し、丹南地域の産業基盤整備を熱心に推進した人物です。二十三歳で銀行の創設に参画し、ついで水力発電所の建設計画に乗り出しています。さらに三十八歳で貴族院議員となり、四十六歳で鉄道会社を創設、「鯖浦電気鉄道」の建設に着手し、大正十五年に東鯖江と佐々生（ささう）間を開通させます。このように、明治中期から昭和前期にかけて新しい事業に取り組み、鯖江の発展に大きく貢献しました。

鯖江出身の厚生大臣 小泉（こいずみ） 親彦（ちかひこ）

小泉親彦は、廃藩以前に鯖江藩の医官として仕えていた父 親正（ちかまさ）の三男として明治十七年に大阪で生まれます。幼くして両親を亡くし、祖母の手によって育てられた親彦は、苦学して東京帝国大学（現在の東京大学）医学部を卒業、軍医を経て、厚生大臣になった人物です。大臣の任期中には、結核の撲滅対策などを精力的に推進しました。しかし、残念なことに、終戦後GHQから出頭を命じられた際、自決しその生涯を終えています。